

に従う。

電気ショックを与える装置には一九五ボルトのところに「非常に強いショック」、二二五ボルトのところに「げげしいショック」、三二五ボルトのところに「きわめてげげしいショック」、三七五ボルトのところに「危険すぎいショック」と表示され、四三五ボルトからは「×××」という表示がされているのにもかかわらず、なんと三分の二の人たちが四五〇ボルトのレバーまで引くのである。人は権威の命令にはとにかく従おうとするのである。(『服従の心理』より要約)

見かけの権威も同じように人の服従を引きだすことができる。

集団への同調

ソロモン・アッシュ博士の実験が有名である。八人の集団に二枚のカードを見せる。一枚のカードには直線が一本だけ書かれており、もう一枚のカードにはそれぞれ長さの異なる三本の直線が書かれている。被験者は三本の直線のうちどれが、一本だけ書かれた直線と同じ長さなのかの判断を求められる。八人のうち七人はサクラであり、真実の被験者は一人である。順に答えを言うのであるが、真実の被験者は七番めに答える。サクラが全員一致で故意に誤った判断を答えた場合に、その影響はどのように被験者に及ぶのかという実験なのである。なお、このような全員一致の誤りに直面しない実験では、被験者は誤りの答えをほとんどしなかった。それくらい簡単で、普通まちがうことなど考えられない問題なのである。

アメリカの男子大学生が被験者になったこの実験で、なんと三分の一の被験者が多数者であるサクラの誤った回答と同じ誤りか、長さにおいて同一方向の誤りをした。ことはどさように、人間には集団への同調の傾向が強いのである。

社会的比較の制限

統一協会の「教育過程」においては、最初のビデオ・センターから「口外禁止」が要請される。「教育過程」が進んでいくにつれて、受講生は他の情報に接する機会が少なくなり、統一協会員以外の人たちと接する機会が少なくなるように誘導される。そして献身した場合には統一協会員以外の人たちと接することがなくなる。そのことがもっている意味は次のとおりである。

人は成長していくなかで、親、兄弟、教師、書物、友人、そしてマス・メディアなどからの情報を受けてピリーフを形成・変化させる。「ピリーフとは、ある対象と他の対象、概念、あるいは属性との関係によって形成された認知内容のことをさす。たとえば、『神が宇宙を支配している』『A型の人はきちょうめんだ』『政治家は腹黒い』『霊界がある』などである。日常的な表現では『信念』だけでなく『知識』『偏見』『妄想』『ステレオタイプ』『信条』『信仰』などがそれにあたります。つまり、人はこうしたピリーフを数多く所有し、個人的に整理し構造化して、あるシステムを形成していると考えられる。新しい情報に対してはそれまでに獲得したピリーフと一致するか、不一致なのかの吟味を行ない、受け入れるかどうかの判断がなされている。そのときの不一致情